独立輜重兵第二十一中隊略歴

年月日	概要
昭一五、七、一五	「五ノニ」動員下令
七、二八	弘前師団野砲兵第八連隊留守隊に於て動員完結
八、三	支那派遣のため弘前出発
八、六	大阪港出帆
八、一五	黄浦港上陸の時を以て第二十三軍の戦斗序列に入り第二十三軍司令官の隷下に入る
八、一七	以降 独立輜重兵第三連隊長の指揮下に在りて広東河南に駐留し広東附近の警備に任ず
一六、二、一	飯田兵団に配属
三、一二	小林少将の指揮下に在りて雷州方面遮断作戦に参加
七、一四	以降独立輜三連隊長の指揮下に在りて広東附近の警備
自 五、三〇 至 八、二六	第百四師団に配属 工兵第百四連隊長及輜重兵第百四連隊長の指揮下に在りて従源作戦に於ける粤漢線作戦参加
八、二七	より 独輜三連隊長の指揮下に在りて広東附近の警備
一八、九、一五	以降自動車第三九連隊長の指揮下に在りて広東附近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九 五 二〇	自動車第三九連隊長の指揮下を脱し第二十三軍司令官の直轄となる
六 一 三	独立混成第二十二旅団長の指揮下に在り
九 三 〇	
一〇 二 三 一	第二十三軍司令部に直属し
二〇	第六十六兵站区隊長の指揮下に在りて湘桂作戦に参加
一二 二 一	以降第二十三軍司令官に直属し広東附近の警備
三 二 一	以降広東省東莞県石馬汀に移駐し樟木頭附近の警備
九 二 八	第百二十九師団長の指揮下に入る
一〇 七	東莞県樟木頭に於て中国側に部隊装備移譲
一〇 一〇	中国側指示に基き移動のため樟木頭出発
一〇 一六	東莞到着と共に武装解除
	同日東莞県城外棠梨村地区集中営に集結
二一 四 一	帰還のため集中営出発
四 二	虎門城外宮浦到着
四 九	虎門出帆
四 一七	浦賀入港
五 二〇	浦賀上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

廣東陸軍兵事部略歴

陸軍大佐　田村孝虎

年月日	概要
昭一七、八、二六	中華民國広東省広州市に於て編成完結 部長陸軍中佐岩切信義　部員　将校一、下士官（判任文官）四、 雇員四、傭人二　計二十一名
九、三、	広東地区に於て、又昭和二十年自三月至五月の間　広東、汕頭、厦門　海南島に於て臨時召集を実施す 昭和十八年　十九年　二十年兵役法施行令第八十条に依る在留地身体（徴兵）検査を部長検査官として十八年は広東、十九年は広東、香港、海南島、二十年は広東、香港に於て実施す 昭和十八年七月（広東　汕頭、海南島　厦門）簡閲点呼　昭和十九年七月（広東、汕頭、厦門）簡閲点呼 昭和二十年三月（広東）簡閲点呼を実施す。

1292

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍陸上勤務第八十二中隊略歷

陸軍大尉　長谷川久勇

年月日	概要
昭一九、三、一六	千葉県印旛郡佐倉町五衛歩兵第五連隊補充隊に於て　編成完結
	編成定員将校五名　下士官十五名　兵四百九十一名　合計五百十一名
三、一六	編成地出発
四、五	門司港出帆
四、二三	中華民国広東省黄浦上陸、同日南支那派遣第二十三軍司令官の隷属に入り、南支那派遣野戰兵器廠に配属となり勤務中の処
八、三、〇	第六十六兵站地区隊に配属替となり湘桂作戰或は其の後に於ける軍需品の輸送に服務中今次終戰となる。
二〇、九、二一	広東省河南集中営に集結
九、二一	
二一、四、二	同地出発
四、五	黄浦廠
四、	浦賀港到着
六、一	浦賀上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設建築勤務第百二中隊略歴

陸軍大尉　吉沢次郎

年月日	概要
昭一九二一九	軍令第　号に依り「京城」に於て編成
	編成定員　将校五、（中隊長一　小隊長三、隊付医官一）准士官一
	下士官一二（分隊長九、給養係一　主計一　衛生一）兵四二
	軍属（傭人）六七五、　計七三六
二、二〇	南支派遣の為京城出発
三、八	門司出帆
三、三一	南支邦野戦貨物廠に配属
四一四	広東省黄埔上陸（先遣隊三月三十一日広東上陸）
四、二一	広東附近警備
二〇、九、二八	集中営に移動集結
二一、四、一	内地帰還のため広東省虎門出帆
五、四	浦賀上陸
五、七	復員式終了
五一三	二日市町に於て復員完結

1294

63の外　南支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
	復員完結時に於ける兵力区分 上陸人員　四十七名（将五、准一　下士十一、兵二九　軍二） 入　院　六名（下一　兵一、傭人四） 現地召集解除　六〇〇名（下二、兵四、傭人五九四） 残務整理者官氏名 陸軍大尉　吉沢次郎 陸軍軍曹　久保春一 編成定員中　朝鮮人六八一（内訳　下一、兵五　軍属六七五） ありたるも還送患者、死亡者　現地召集解除並解傭者転属者 等を除き、現地出発迄に全員中国側に移管を完了せり	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五六野戰道路隊

陸軍中佐　大坪忠国

年月日	概要
昭五、四、五	部隊は軍令第　号に依り野戰重砲兵第六連隊補充隊に於て編成完結
五、一八	門司港出帆
五、二五	上海上陸
九、一一	上海出発
一〇、九	九竜港上陸
一〇、一四	広東到着　同月同日より才二十三軍司令官直轄となり
二〇、二、二八	広才二　才三湖桂作戰参加引続き英德附近に在りて粤漢線復旧作業に従事
八、一四	終戰と共に広東集結を命ぜらる
九、一〇	広東集結
九、一五	広州市河南大岡集中営に集結
二一、四、一	黄浦出発
四、九	浦賀港到着　コララ発生のため船内隔離
五、六	上陸
五、一六	復員完結

(256)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十九野戰兵器廠移動修理班略歷

陸軍大尉　工藤寛次郎

年月日	概要
昭一九、三、二五	関東軍才六軍作命甲才一七四号に依り支那派遣軍の戦斗序列に入らしめら
	編成完結
三、三〇	満州國海拉爾出発
六、二一	南支邦英浦上陸
自六、二六 至七、二一	広東才二十三軍野戰兵器廠
自七、二〇 至一〇、一二	湘桂作戰参加
自一〇、一二 至二〇、一一	広東才二十三軍野戰兵器廠に在りて整備並兵器修理業務
四、一二	広東省惠州に於て兵器修理並補給業務
八、一四	停戰詔書発布
八、一八	復員下令
	停戰協定締結
	広東省惠州に於て武裝解除
	広東省惠陽県稔坡東中營入所
二一、三、一七	内地帰還の為広東省東莞県大平地区集中營に移動
四、二	虎門港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、四、九	浦賀港碇泊
四、一九	浦賀上陸　馬堀援護所に入所
四、二八	復籍完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一九野戦自動車廠移動修理班略歴

陸軍大尉　氷　次　辰　蔵

年月日	概要
昭一九、三、二三	動員下令
三、二五	編成完結
	人員　将校五（内主計将校一を含む）　下士官兵一九一　計一九六名
	器材　小型乗用車四輌　自動貨車五輌、修理車二一輌　計三〇輌
	携行工具一二組
三、三〇	満州興安北省海拉爾出発
四、二	山海関通過　同日支那派遣軍に転属
四、一一	上海到着
五、一〇	南支派遣才二十三軍司令官の隷下に入り
八、五	一部（部隊の約三分の一）上海港出発
八、二八	広東到着
一一、二八	主力は上海港出発
一二、一〇	広東到着　同日南支那野戦自動車廠長の指揮に入る
	広東到着より終戦に到る間
	広東周辺地区に於て自動車修理

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	広東附近に於て軍需品分散格納作業並に洞窟陣地の構築に従事す 終戦直前主力は広東地区に在りて軍需品の分散格納　陣地構築作業に従事し ありしも、終戦直後広州に集結を命ぜられ、集中営に居住するに到る 爾後中国側に接収せられたる自動車修理に全員従事し乗船二日前迄作業を続 行す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一七野戰貨物廠被服移動修理班略歷

陸軍主計大尉　小林孫一

年月日	概要
昭一九、三、二〇	東作命甲第五七号に依り滿州東安第十七野戰貨物廠に於て編成完結
三、三、二	編成人員　將校二、下士官五、兵八六　計九三名
三、二八	東安出発
四、一四	上海着
五、九	呉淞港出帆
六、一	九竜港着
六、八	広東着同時第二十三軍司令官隷下に編入　同日南支那野戰貨物廠長の指揮下に入らしめらる
自 八、二、三〇 至 二〇、三、一九	第一期湘桂作戰に參加、清遠附近に於て第二期湘桂作戰に參加
八、一四	梧州丹竹附近に於て、被服補修作業に從事
二、四、一	韶州並惠州附近に於て被服補修作業に從事中終戰となる
四、一〇	内地歸還のため広東出発、浦賀港
五、四	上陸、同月十三日復員完結

(261)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍患者輸送第七十九小隊略歴

陸軍大尉　吉川豊

年月日	概要
昭一九・三・二〇	軍令第　号（西軍尽統四五八号）に依り編成下令
四・三	佐世保重砲兵連隊補充隊に於て編成着手
四・五	編成完結す
	編成要員左の如し
	兵科将校一、　軍医将校六　兵科下士官一、主計下士官一
	衛生下士官　衛生兵三六　計　五四名
四・三	佐世保重砲兵連隊補充隊に於て編成着手
四・五	編成完結
四・一六	佐世保重砲兵連隊補充隊に衛戍
四・一七	南支那派遣のため門司出帆　同日第二十三軍司令官の隷下に入る
五・一四	広東省黄埔上陸　同日広州着
五・一五	南支那に於ける患者輸送業務に従事　此の間湘桂作戦　恵豊作戦　三南作戦
八・二〇	に参加す
八・一四	終戦
	復員下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一〇、一八	第一三六兵站病院に配属診療業務援助
二、四、七	左東省番禺県岡村集中営に集結、前任務を続行
	内地帰還のため集中営出発
	同日虎門沖にてLVO八四し号に移乗す
四、一四	浦賀入港
五、三、一	浦賀上陸
六、三	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍野戦兵器廠略歴

陸軍中佐　櫻井幸衛

年月日	概要
	軍令陸甲第十八号に依り編成下令
昭二〇・五・一五	編成完結
	軍令の甲編成にして人員は第二十三軍隷下部隊並傭者及現地応召者に依り充足せられ兵器廠同動務中隊一　移動修理班四を編成し、完結時の充足要員は約半数に過ぎず依て移動修理班は班長以下の指揮要員のみ勤務中隊　三分の一弱なりしが既傭中の第八師団陸上輸卒隊及第一九野戦兵器廠移動修理班（一部欠）一を以て火力欠を補えり　爾後数次に亘り各兵団及軍直轄部隊の関係有技能者を転属せしめられ七月頃には編成員を超過する状況にあり、之を定員内に編入せらるることに定められつつ停戦となる。 廠の主要任務は沿岸上陸に応ずる決戦兵器の製作及既成兵器弾薬等の対空分散格納保全にありて補給及修理班は寧口次等におかれたり。 施設及配置本廠を広東に　支廠を香港及韶関に　出張所、派出所を惠州、揮木頭　銀箋坳及源潭墟等におき、本廠は工場を広東附近七ヶ所に、倉庫は十数ヶ所に分散、弾薬は更に一洞窟十哩程度に分散格納し兵器器材も逐次之に準い工場亦地下に移さんと作業の中絶を避けつつ実施し完成半にして停戦と

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	なる・支廠出張所に於ても概ね同一状況なり
	兵器製作状況　南支工業力の関係上兵器の主要部分は廠自体にて担当し一部部品半完成品等を民間工場利用に依り完成品は直に各兵団部隊に交付し訓練に充つると共に研究改善し性能を高めて更に製作する如く指導せられ先づ三月末を第一次に爾後四月末を第一期に逐次充足し七月末には概ね所望の域に達し八月以降製作　主要兵器の大量製作に移り三部制を以て昼夜兼行生産に努力しつつ停戦となる
	終戦後は担当兵器弾薬の撤収整理中国側に引継移管並に労整理援助に任し事故なく接収を完了せり
昭二〇、九、一四	一斉に武装を解除し東山、石牌河南と転々移動し
一〇、一	関村集中営に集結
	爾後約六ケ月間同地に滞留其の間約四〇％の人員を中国側諸作業援助に派遣す
二一、四、二	帰還輸送の為同地出発　新埠（黄浦）に移動し待期し
四、八	乗船「セコンドバーレ」にて輸送船V〇七〇（トーマスバートレイ号）に移乗
四、一五	浦賀港投錨　検疫の為同港滞留
四、二三	上陸　馬堀援護所に収容　更に検疫の為同地滞留
四、二七	解散

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍野戦自動車廠略歴

陸軍工兵中佐　黒住一正
陸軍輜重兵中佐　河田六次郎
陸軍大佐　菱田秀吉
陸軍中佐　水谷彦吉
陸軍少佐　安田孝信

年月日	概要
昭一三・九・一三	名古屋輜重兵第三連隊に於て第二十一野戦自動車廠編成完結
一五・八・二六	軍令陸甲第三十六号に依り第二十一野戦自動車廠編成改正下令
九・一八	第二十一野戦自動車廠復員完結　同日南支那野戦自動車廠編成完結
一七・七・三	軍令陸甲第四十九号に依り南支那野戦自動車廠編成改正下令
七・二五	南支那野戦自動車廠編成完結
二〇・三・一七	軍令陸甲第十八号に依り第二十三軍野戦自動車廠臨時編成並南支那野戦自動車廠復帰下令
三・三一	南支那野戦自動車廠復帰完結　同日第二十三軍野戦自動車廠臨時編成完結
八・一四	停戦詔書発布
八・一八	復員下令
九・二	停戦協定締結
二一・三・二九	内地帰還のため広東出発　同日黄浦集結

1306

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一四一	黄浦港出帆
四九	浦賀港入港
五七	浦賀港上陸
五二〇	復員完結
	行動の概要
昭一三一〇	南支那バイアス湾に上陸　広東攻略戦に参加し広州市東山に自動車廠を開設し
一四八	広州市河南に本廠を推進し　終戦に至る迄同地に於て自動車関係兵器資材及燃料脂油類の修理補給業務に任ず
	右期間に於ける作戦参加（後方勤務のため戦斗不参加）
一四四	海南島攻略戦に際し広東本廠より兵器補給班並移動修理を派遣し海口に支廠を開設し同地に在る部隊の自動車関係兵器の補給修理業に任ず
一四二	南寧作戦に際し欽県に支廠を派遣し修理補給業務に任ず
一五一〇	北部仏印進駐に際し欽県支廠及広東より移動修理班の主力を以て海防に支廠を開設し自動車関係兵器の修理補給業務に任ず
一六七二五	第二十五野戦自動車廠編成と共に同廠に転属す
一六四	中山より福州半島に至る沿岸上陸並に討伐のため中山に出張所を開設し同地附近に在る部隊の修理補給業務に任ず
一六六	福州作戦に際し海南島派遣中の移動修理班は中川兵団と共に上陸し福州に於

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一六、一二、一〇	て自動車関係の修理業務に任ず
二〇、三	香港攻略戦に際し海南島より移動修理班を広東本廠より物資蒐集班を派遣し同地に支廠を新設し自動車関係兵器並に燃料脂油類の補給修理業務に任ず。
	第二次湘桂作戦に際し広東より支廠並移動修理班の一部を梧州に派遣す
	第三次湘桂作戦に際し広東より韶州に支廠を派遣す。

(268)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍野戰貨物廠略歷

陸軍主計大佐　宮林彦次

年月日	概要
昭二〇・三・三一	軍令第　号に依り広東に於て編成す
	部隊の編成は貨物廠（甲）に被服移動修理班にて衛生材料及獣医材料移動修理班各一ケを現在員一二四名を以て充用し他は欠員の儘編成完結す
一三・九・一七	第三野戰衣糧廠編成す
一〇・一三	広東攻略戰に參加
一五・九・二三	南支那野戰貨物廠に編成改正
一六・一二・八	香港攻略戰に參加
一九・五	湘桂作戰に參加
二〇・四・一	第二十三軍野戰貨物廠に編成改正
八・一五	終戰
二一・五・三一	復員の為広東出帆
五・四	浦賀上陸
五・二〇	復員完結
殘務整理者官氏名	陸軍主計大佐　宮林彦次　陸軍兼利少佐　守田川孝雄 陸軍々屬　石角作々蒸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

香港防衛隊司令部略歷

陸軍少將　岡田伍吉

年月日	概要
昭一七、二、二〇	香港に於て編成
二〇、一、一〇	香港占領地総督の隷下を脱し第二十三軍司令官の隷下に入る
二一、二、二〇	陸軍大尉川口新吉以下七十一名内地帰還のため同日主力と分離し　同日九龍出発す
二、二、六	鹿児島上陸
	同日復員式挙行
	同日残務整理者川口大尉以下三名を除き除隊及召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍香港防衛隊司令部略歷

陸軍獣医大尉　今井源治

年月日	概要
昭二一・二六	香港出航
	人員
	香港防衛隊司令部　七　將校一　下士三　兵八　傭八二
	香港占領地総督部　五　下士官二　兵三
	（主力既に帰郷せり）　独立歩兵才六十七大隊　三二　下士官二　兵三〇
	（主力と復員本部に於て　書類引継終了）　独立歩兵才六十八大隊　九
	独立歩兵才六十九大隊　三二　下士官七　兵二五
	（主力と復員本部　書類引継終了）　香港防衛隊砲兵隊　七
	香港防衛隊司令部に転属　独立歩兵才七十一大隊　一
	右　同　独立歩兵才百二十五大隊　一
	右　同　水上勤務六十中隊　一
	右　同　才三十二師団通信隊　一
	右　同　南支派遣軍貨物廠才六十六中隊　一
	（主力と復員本部に於て　書類引継終了）不明（才六百二十二部隊）鐘鬼八六六八　一
	香港防衛隊に転属　宇品運輸部

香港防衛隊司令部に仮に転属したり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	計　一〇〇
	戦時名簿の整理状況
	戦時名簿は全員所持しあらず　故に上陸地に於て各人より口述書を取り、之に代う
	残務整理者
	香港防衛隊司令部陸軍獣医大尉今井源治水上勤務才六十中隊陸軍兵長池田龍夫
	主力と分離後の概要
昭二一、三、二五	九龍市深水埗虜収容所金陸司令官安武大佐の命に依り内地帰還者各部隊混成にて将校以下百名指定、将校輸送指揮官を命ぜられ
三、二六	十八時米国自由型貨物船ヘレナモヂエスカ号にて出帆
四、一	二十二時浦賀港投錨
四、三	浦賀上陸　直ちに久里浜収容所に入る
四、五	夫々帰郷せしむ　残務整理者として輸送指揮官及兵一名、支那派遣軍復員本部に　残務整理に従事す。帰還者百名中独立歩兵才六十八大隊九、香港防衛隊砲兵隊七、鐘鬼才八六六八大隊一、計十七名分の書類は主力と復員本部に　渡したるに依り引継ぎ残八十三名分の書類を整理　四月　日残務整理者二名は名簿を解除せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六十七大隊略歴

年月日	概要
昭一四一二八	編成下令
二一一	編成完結（中華民国広東省広東に於て）
	兵備改編　才四師団後備歩兵才五大隊及独立機関銃才二十一大隊に依り改編
	編成完結の状況　南支那方面軍司令官編成担任者となり　才四師団後備歩兵
	才五大隊及独立機関銃才二十一大隊を以て編成を完結す
	昭和十三年十月十二日　渡支
	渡支当時駐屯地　中華民国広東省広東
昭三一〇一二	バイアス湾沿岸南方海岸に敵前上陸
一〇一二	追撃戦斗参加
一〇二二	広東攻略戦参加
一四一一二八	編成改正下令
二一一	編成完結
一五二一二一	広東省広東附近の警備
一一三一一五	翁英作戦参加
二一一一〇六	賓陽作戦参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一五・二・二三	広東省一地附近の警備
一五・八・一一	広東省南海県九江附近の警備
一七・一・一九	香港島の警備
一八・一〇・一〇	広東省宝安県深川附近の警備
一八・一一・二〇	広九作戦参加
二〇・一・一三	広九鉄道沿線地区の警備
二〇・一・一九	恵豊作戦参加
二〇・一一・五	広九鉄道沿線地区の警備
九・一一・一六	香港九龍深水浦停泊収容所に入所
九・一・一四	復員の為香港九龍港出帆
二一・二・二〇	鹿児島上陸
二一・二・二六	復員

(2014)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六十七大隊略歴

陸軍大佐　上谷
陸軍中佐　宮地栄
陸軍中佐　永峰真猛
陸軍大佐　堀慶二郎
陸軍大佐　藤本末男
陸軍少佐　廣田義孝

年月日	概要
昭一四、一、二八	編成下令
二、一	編成完結
	編成地　中華民国広東省広東
	兵備改編　第四師団後備歩兵第五大隊及独立機関銃第二十一大隊に依り改編
	編成完結の状況　南支邛方面軍司令官編成担任官となり第四師団後備歩兵第五大隊及独立機関銃第二十一大隊を以て編成を完結す
	渡支年月日　昭和十三年十月十二日
	渡支当初の駐屯地　中華民国広東省広東
昭三、六、一二	バイアス湾指向南方海岸に敵前上陸
一〇、二、一二	重要戦斗参加
一〇、一、二三	広東攻略作戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭一四・一・二八	編成改正下令	編成当時
二・一	編成完結	八百九名
二・二六	広東省広東附近の警備	復員人員
二・二三	翁英作戦参加	
二・五	賓陽作戦参加	編成以来の
一・一〇	広東麥地附近の警備	戦歿者
八・二三	広東省南海県九江附近の警備	百四十八名
一・二一	香港島の警備	
一七・一九	広東省宝安県深圳附近の警備	
一八・一〇	広九作戦参加	
二・二〇	広九鉄道沿線地区の警備	
二〇・一・三	恵豊作戦参加	
二・一五	広九鉄道沿線地区の警備	
九・二六	香港九龍深水涉俘虜収容所に入所	
九・一四	復員の為香港九龍港出帆	
二・二〇	鹿児島上陸	
二・二六	復員	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

69の内　南支

独立歩兵第六十八大隊略歴

陸軍中佐　太田紀一
陸軍大佐　渡部田美
陸軍大佐　古川哲夫
陸軍大佐　中川光

年月日	概
昭一四・一二・八	編成下令
二・一	編成完結
	編成地　中華民国広東省広東
	兵備改編　独立機関銃第六大隊
	編成完結の状況　南支那方面軍司令部編成担任官となり独立機関銃第六大隊及後備歩兵第五大隊を以て編成を完結す
	渡支年月日、昭和十三年十月十二日
	渡支当初の駐屯地　中華民国広東省広東
昭一三・一〇・一二	バイアス湾敵前上陸
一〇・一二・一二	亘裏戦斗参加
一〇・二二・二三	広東攻略戦参加
一四・一・二八	編成下令
二・一	編成完結
六・二	広東省新会附近の警備
二六	広東省佛山附近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一四、一二、二三	翁英作戦参加
一五、一、一四	資陽作戦参加
二、一一、二一	広東省志肇附近の警備
四、二、四	広東省九江附近の警備
九、一、九	広東省広東附近の警備
一七、一一、〇〇	香港占領地総督管区の警備
二〇、八、一三、一四	香港九龍深水涉俘虜収容所に入所
九、一、六	香港九龍出帆
二一、一、二九	鹿児島上陸
二、五	復員完結
	兵力
	編成当時　八〇九名
	復員人員　七二四名
	編成以来の死歿者　八三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六十八大隊略歴

陸軍少佐　加藤鉦男

年月日	概要
昭一九・一〇・二八	陸軍一等兵及川由雄は中共軍に抑留中の処
四九	滝口集中営（青島西方約二十粁附近）に集結
	独立警備歩兵第十二旅団歩兵六十五大隊長陸軍大尉茶山茂（抑留者）の指揮
	に入り
四二六	青島港出帆
五三	佐世保港上陸
五五	異状なく帰郷せり
	菊地庶務は戦務整理者として及川一等兵の書類携行各事務整理し
	五月十六日任務終了帰省す

調製者　歩兵第百三十一連隊第六中隊

陸軍歩尉　菊地万次郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六十九大隊略歴

年月日	概要
昭一四、二、一	編成　（昭和十三年九月十五日第十師団後備歩兵第五大隊） 編成地　広東省南海県九江（後備大隊は岡山市） 兵備改編　第十師団後備歩兵第五大隊及独立機関銃第二十一大隊とにより、 現地に於て改編す
昭一三、一〇、一五	渡支年月日　昭和十三年十月十四日
一三、一〇	より惠陽県淡水附近の警備及討伐
一三、一二、九	より増城附近警備及討伐
一四、一、二〇	広九鉄道警備
一四、三、二九	より南海県九江附近の警備及討伐
一四、三、三〇	新会江門附近の戦斗
一四、八、一一	より東莞県石龍附近の警備
一五、二、一〇	より広東省広東市警備
一六、一〇、二四	四会北江作戦
一七、二、九	香港に転進
一七、二、一一	より香港及九龍北方地区の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭八 二、二〇	広九作戦
二、二〇	患整作戦
九、一四	九龍深水埗収容所に収容
	主力と分離後の行動
二、二、二〇	将校十六、准士官五、下士官一〇八、兵四一三、計五四二名、各主力と分離し英国船「サンザントリス」丸により九龍出帆し、海上頗る平穏にして一名の患者なく軍紀概ね厳正
二、二六	鹿児島に上陸、検疫及所持品検査等異状なく終了
	同所に於て除隊召集解除
二、二七	各方面別により先任者の別辛を以て帰郷せしむ
	残務整理者
	陸軍大尉 植木 聽三五
	陸軍軍曹 渡辺 正
	右二名残務整理の為復員本部に残留す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

香港砲兵隊略歷

陸軍大佐　川口久勝

年月日	概要
昭一七・一・一五 二二〇	昭和十七年軍令陸甲第三号により編成 編成完結 編成地　香港占領地総督管区九龍地区 編成完結の状況 第一砲兵司令官陸軍少将北島駿四郎編成担任官となり主として左の部隊を以て編成す 第一中隊　独立重砲兵第三大隊 第二中隊　野砲兵第十四連隊 第三中隊　迫撃第二十一大隊 第四中隊　独立山砲兵第十連隊 高射砲兵第二十一連隊 高射砲兵第十五連隊 高射砲兵第二十三連隊 砲兵情報第五連隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、二、二〇	編成完結
一七、二、二〇	香港占領地警備
一八、二、一〇	広九作戦参加
一九、一、一三	香港占領地並に国境外広九鉄道の警備
一九、五、一八	香港占領地並に国境外の警備
二〇、一、九	恵豊作戦参加
二〇、一、一五	香港附近の警備及防空
二〇、六、一六	香港附近の粛正
二〇、七、一四	旧香港占領地総督管区九龍地区深水埗英軍収容所に入所
二〇、九、一〇	九竜出帆
二〇、一一、二九	鹿児島上陸　復員式完了
二五	兵力
	編成当時　六二六名
	復員人員　六六八名
	編成以来の死歿者　五五名
	生死不明者　一〇名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十六兵站病院略歴

年月日	概要
昭一九、三、一七	広島市広島陸軍病院に於て編成す 編成人員　定員　三五九 軍医将校　三一　主計将校　一　主計下士官　二 薬剤将校　二　衛生下士官　五八　衛生兵　二六〇 衛生将校　二　療工下士官　二　馬取扱兵　一 収容力　一、〇〇〇名
昭一九、一二、一三	湘桂作戦参加に伴う （武宣兵站病院）病院長以下七〇名を以て広西省武宣県武宣に兵站病院を開設し
二、一〇	閉鎖す　収容患者約八〇〇名
二、一、五	湘桂作戦参加に伴う （白馬圩才二半部兵站病院）軍医大尉藤山光以下一〇〇名広西省平南県白馬圩に才二半部を以て兵站病院を開設す
二〇、一、五	閉鎖　収容患者約二、〇〇〇名 恵豊作戦参加に伴う

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、四、一四	〈汕頭兵站病院〉病院長以下六〇名を以て汕頭市に兵站病院を開設
七、二七	閉鎖　収容患者一、〇〇〇名
	恵豊作戦参加に伴う
昭二〇、三、二四	〈恵州才二半部兵站病院〉軍医大尉中島恕介以下一〇〇名恵州市に才二半部を以て兵站病院を開設
九、二	閉鎖
	広東駐留に於ける
九、四	〈東沙兵站病院〉病院長以下二三五名を以て開設後肉村に移動し、復員の為出発時閉鎖　収容患者一三〇〇名
	歴代病院長の官姓名其の在任期間
	陸軍々医中佐　田中　厳　病院長として編成し復員迄満二ヶ年に至る
	終戦後の状況
	終戦後は引続き主力を以て広東東沙に於て兵站病院業務を続行
二〇、一〇、一七	広東閉村乗中営に移転、病院業務を続行
二一、四、七	閉鎖し広東出発乗船
四、一四	浦賀港着　「コレラ」防疫に任じ
五、三、一	浦賀上陸
六、三	召集解除す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十兵站病院略歴

年月日	概要
昭二〇・三・一八	第百六十兵站病院は軍令陸甲第十八号により、広東第一陸軍病院を復帰し、諸病院の総人員中より第百八十兵站病院編成要員として、将校以下約六十名を転属せしめたる残余の人員、並に兵科准士官以下の配属を受け、第百六十兵站病院の編成を下令せられ直ちに編成に着手　広州市東山に於て旧広東第一陸軍病院に於ける一切の施設を継承し
三・三一	編成を完結し　業務を開始せり
	編成人員及収容力
	編成表別表の如し
	収容力は概ね一〇〇〇名と定められたるも、編成完結当時は旧広東第一陸軍病院に収容中の患者全部（概ね一、二〇〇名）を引継ぎ収容せり。
四・一	作戦参加事項
	本院は編成後、第二百兵站病院の東山に於ける施設を引継ぎ、広州市西郊増城に移駐し一部は西村に療養所を開設す。
	尚六月下旬より粤漢線北上作戦に伴い、同沿線の韶関、源潭墟、英江口墟に各療養所を開設

別の外　南支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	尚五月二十八日より八月十五日迄楽昌二、六月十四日より七月十五日迄、南雄に療養所を開設、患者収容に任ぜり。 以上療養所開設期間中に於ける収容患者総数次表の如し。 本院　一、四二三名 西村患者療養所　二、一五二名 銀盆坳患者療養所　七一一名 源潭癩患者療養所　二、三一一名 邕江口癩患者療養所　四一三名 乳昌患者療養所　六七二名 南雄患者療養所　四五五名 韶関患者療養所　三八五〇名 尚九月一日才二百兵站病院の香港地区転進後、引継患者一、〇四五名、其の後の収容　昭和二十一年二月二十日迄二、七〇八名に及び、総収容人員一五、七四〇名に達せり 歴代病院長 才一代　昭和二十年自三月三十一日至六月三十日陸軍軍医大佐従五位勲三等　飛田徳寿 才二代　昭和二十年自六月三十日陸軍軍医大佐従五位勲三等　北村義雄 其の他

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一四	終戦に伴い第二百兵站病院は香港に転進せる為
八、三〇	再び東山に移駐し
九、一	第二百兵站病院より引継を完了
九、一三	部内患者療養所の引揚を最終として、粤漢沿線各療養所は全部本院に復帰せり
一〇、二〇	尚 中国新編第一軍野戦病院と引継を開始
一〇、三〇	完了 同日河南基立村に移駐 病院を開設現在に至る
二一、四、二〇	広東発
四、二一	佛印上流セコンドバーにて病院船に乗船
	同日同地発
四、二六	浦賀港着、隔離
五、一四	上陸
五、一八	復員式終了
六、一三	復員完了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十兵站病院略歴

年月日	概要	期間	収容総数	死亡	摘要
昭一五、二、九	病院長の異動				
自昭一五、二、九 至一六、三、一	陸軍軍医中佐 福山正明				
自一六、三、一 至一七、一、一五	陸軍軍医中佐 津川辰三				
自一七、一、一五 至一八、六、五	陸軍軍医中佐 渡辺稔				
自一八、六、五 至二〇、二、一四	陸軍軍医中佐 山木修				
自二〇、二、一四 至二一、五、三〇	陸軍軍医大佐 山田矢三				
昭一九、二、九	病院は開設以来、昭和二十年八月十四日の終戦に至る間広東市百靈路知用中学校の跡に於て専ら伝染病患者の収療に任じ総数二二、一三七名（昭和二十年末現在）の患者を収容せり、其の内訳左の如し	昭和十五年度	一、二四三	二四	自一五、二、九 至一五、一二、三一
		〃十六〃	三、六四三	八八	自一六、一、一 至一六、一二、三一以下同
		〃十七〃	三、一六三	六六	
		〃十八〃	一、九二〇	四七	
		〃十九〃	三、〇三八	一五七	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要				
	期間	収容総数	死亡	摘要	
	昭和二十年度	四、〇二九	三四五		
	計	一七、〇二七	七二七		
	病院の一部を以て開設せる患者療養所才二半部の状況左の如し				
	名称	収容総数	死亡	摘要	
	梧州患者療養所	四、六〇〇	一五八	自一九、二、一八　至二〇、八、一六	
	江村才二半部	四二四	九	自二〇、四、二〇　至二〇、八、二四	
	黄埔患者療養所	八六	一	自二〇、八、二三　至二〇、九、一二	
	計	五、一一〇	一六八		
昭一六、四、より	主なる戦斗及病院の行動左の如し				
	二ケ月間、東江作戦　患者収容班要員として松次軍医中佐以下二十名、バイアス湾に派遣				
昭一八、二、より	五ケ月間、広州湾進駐作戦　患者療養所要員として城軍医中尉以下二十四名留州半島に派遣				
昭一九、二より	終戦迄、湘桂作戦　患者療養所要員として伊丹軍医中尉以下二十四名梧州に派遣				
昭二〇、四より	終戦迄、北江作戦　山田軍医少佐以下九六名を以て才二半部を江村に開設す				

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八より	一ヶ月間　終戦終結　三海軍武官大尉以下十八名を以て黄埔に患者療養所を開設す
	病院並才二半部は患者療養所の開設要図附図才一及　才五の如し
	前記の如く各戦斗に応じ患者療養所及分院を派遣開設し患者収容を任ずると共に病院主力は依然広東市に在りて後送患者（主として伝染病）を収療し現地治癒に努むる外　補充衛生兵の教育及看護助手（台湾女子青年）の養成附近部隊への衛生材料補給及検疫実施更に敵機の来襲激烈化に伴い防空施設の強化と警備の充実に将校以下挙く戦斗せり
	感状　行賞に関する概要
	特記すべき事項なし
昭一五、一一、九	駐剳派遣動員編成改正
	軍令陸甲才五〇号に依り野戦予備病院才七班及才五師団才一野戦病院を改編し広東才二陸軍病院の編成を完結す　其の編成人員左の如し
	軍医将校　一二名（病院長軍医中佐）　主計下士官　二名
	主計将校　一名　療工下士官　二名
	薬剤将校　二名　衛生兵　一二六名
	衛生将校　二名　（内看護婦二一名）
	衛生下士官三〇名　合計　一七七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、三、二〇	軍令陸甲第一八号に依り左東第二陸軍病院の復帰並第百八十兵站病院の編成下令せられ
三、三一	之が改編を定結す。 其の編成人員左の如し（アラビア数字は定員とす） 軍医将校 20 二三名（病院長軍医大佐）　主計下士官 3 三名 薬剤将校 3 三名　衛生兵 212 一九七名 歯科医将校 1 三名　兵科兵 41 八名 衛生将校 3 三名　看護婦 17 一三四名（内看護助手九六名） 主計将校 1 二名　軍属及生 二九名 兵科下士官 5 四名 衛生下士官 41 四八名（内准尉五名）　合計 350 四六六名 兵営の移転増築災害営繕の主なるもの 病院開設以来収容定員五〇〇名の収容施設を有し建物は何れも鉄筋煉瓦造にして任務遂行上支障なかりしも昭和十九年六月台湾より看護助手九八名の配属を受けし為自隊員の宿舎に著しき狭隘を感じたるを以て軍連絡部の接収を申請し附近民家の一部及廃屋の改造拡張を図り辛うじて収容せしも保健衛生上には適当ならざる点多かりき
昭一九、八	頃より敵機の来襲激烈となりしを以て病院周辺の空地二二五五箇の個人防空

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	壕及四箇の集団防空壕（一箇平均収容人員五〇名）を構築す、重症病棟周辺には爆風除壁を補強すると共に貯水池を要所に新設する等防空の完璧を期せり
昭二〇、三	より軍命令に基き防空用洞窟の構築を計画し観音山に総延長八六〇米 龍眠洞に総延長二九〇米を掘開し尚着々進捗中なりしも終戦となれり。然りて病院の洞窟作業は繁忙なる診療業務の傍ら他部隊と同様の掘開進捗を要求せられし為僅少の勤務力を以て患者及自隊員全員を収容し得る洞窟を構築する為将校以下看護婦軽症患者に至る迄三交代徹夜を以て敢斗せり。
敵機の来襲を頻	に受けたるも幸にして病院には被害を受けたることなし
終戦の状況	
昭二〇、一〇、六	中国新編第一四半三十八師野戦病院に建物陣営具は衛生材料を移譲し広東市河南大崗集中営に収容患者と共に移転し 引続き附近集中営の患者 各地部隊の移動帰還に伴う後送患者を収容しあり、之等患者は終戦に伴う精神的打撃と給養の悪化に伴う栄養の低下、衛材料の欠乏の為予後一般に不良なり病院の諸施設を移譲せる前記中国野戦病院業務援助の為上司よりの命令に依り左記人員を派遣せり（自昭和二〇・一〇・六 至昭和二一・三・一五）而して同野戦病院は当病院に対し総て厚意的にして集中営への移転時の車輌の斡旋、護送諸物品の移譲の円滑 派遣人員の待遇に至る迄理解を以て処理

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要
	し極めて興奮に進捗せり

業務区分	将校	下士官	兵	計
外科	一	一	一	三
歯科	一		一	二
病理試験	一	一	一	三
X放線		一	一	二
衆室	一	一	一	三
計	四	四	五	一三

其の他特記事項

野戦の伝染病院として終始せる当病院は伝染病の伝播防止院内感染の絶滅に関しては常に幹部以下の注意せる所なるも昭和二十年一月より腸チフスの爆発的流行を来し、部隊員に計五六名の腸チフス患者を発生し内七名死亡せり。然して本病流行の原因を探究するに転属衛生兵中に腸チフス菌保有症一名ありたるも之が発見遅かりとも建物の関係上之が隔離の徹底を欠きたること及伝染病患者に慣れ過ぎ、個人防疫観念の欠除を来たりたること等に起因するものと思料する。

昭和二十年八月より中国側に徴傭せられ市内清掃に従事りありたる部隊及び

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	船舶部隊よりコレラ患者発生し、計三十一名の真性コレラを収容し内一〇名死亡したるも鋭意院内防疫に努めたる結果、集中営内の不完全なる防疫施設と衛生材料の欠乏にも拘らず幸にして終熄せしむるを得たり 収容患者の診察に於て経験せる南支疾病の特異性付録才一の如し 終戦当時に於ける職員表付録一の如し 帰還並復員
昭二〇・四・八	以降、部隊は患者護送の関係上三船団に分割せられ 逐次出発帰還せり
四・一九	部隊主力は広東出発
四・二六	浦賀入港 コレラ防疫の為上陸延期せられ
五・一四	浦賀上陸
五・一八	復員式を実施し解散せり
	而して護送患者は主として伝染病患者にして合計一三五名を病院船アルニタ丸、衛生班に引継ぎ同船に便乗帰還せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十兵站病院略歴（一部）

陸軍軍医大尉　賢木原　敏　男

年月日	概要
	本部隊は才百八十兵站病院（病院長陸軍軍医大佐山田兵三）の一部にして、編成当時の兵力区分左の如し 自隊員　収容豊医患者　計 将校　一二　九　二一 下士官　二三　五〇　七三 兵　九二　三六八　四六〇 軍属　六五（六四）　一五（五）　八〇（六九） 計　一九二（六四）　四四二（五）　六三四（六九） 括弧内は女子軍属にして再記す 編成当時の部隊長山田軍医少佐は昭和二十一年五月四日依病下船、久里浜検疫所病院に収容せられたるを以て左の如く部隊長を交代せり 前任部隊長　陸軍軍医少佐　山田　有 後任部隊長　陸軍軍医大尉　賢木原　敏　男 収容豊医患者の先任者は才百四師団歩兵才一〇八連隊陸軍主計大尉吉田四郎なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一・四・七	内地帰還の為広東出発
四・八	黄埔出航
四・一四	浦賀に入港
五・三・一	浦賀上陸　同日横須賀援護所に収容せらる

復員完結時の兵力区分

自隊員		収容還送患者		計	
将校	六	三		九	
下士官	二〇	二八		四八	
兵	八〇	二二五		三〇五	
軍属	五八（五七）	四（二）		六二（五九）	
計	一六四（五七）	二六〇（二）		四二四（五九）	

括弧内は女子軍属にして再記とす

兵力の減員は左記に依る

船中発病並病状増悪に依り下船せるもの		船中にて病死せるもの		計	
自隊員	二八	ナシ		二八	
収容還送患者	一七〇	一二		一八二	
計	一五八	一二		二一〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、六、四	収容還送患者並入院患者は何れも久里浜検疫所病院に入院せしめたり 復員式を挙行し隊員を除隊せしむ。 残務整理者官氏名 陸軍軍医大尉　賢木原敏男 陸軍衛生軍曹　滝沢元助

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp